

2025 年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

I 現況	1
1. 事業	1
2. 役員	1
3. 評議員	2
4. 事務局	2
5. 事業資金	2
II 理事会・評議員会	3
1. 理事会	3
2. 評議員会	3
III 事業実施の概要	4
1. 調査事業	4
2. 保護事業	4
3. 支援事業	12
4. 普及事業	15
5. ネットワーク事業	19
6. 団体交流事業	19
7. その他	21
IV 登記事項、届出・報告・申請事項	22
参考 アドバイザー名簿、顧問名簿および観光資源専門委員名簿	23

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源(以下「保護対象」という。)の取得および管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想および知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集および提供
- (6) 政府および関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2026年3月31日現在の役員

会 長 (代表理事)	安富 正文	東京地下鉄(株)顧問
副会長 (代表理事)	銭谷 眞美	(公財)新国立劇場運営財団理事長
理事長 (業務執行理事)	福本 啓二	常勤
副理事長 (業務執行理事)	中村 仁	(公財)日本ナショナルトラスト関西支部長
理 事	蝦名 邦晴	(一社)日本旅行業協会理事長
理 事	苅谷 勇雅	元・文化庁文化財鑑査官
理 事	最明 仁	(公社)日本観光振興協会理事長
理 事	榊原 篤	東海旅客鉄道(株)常務執行役員 営業本部長
理 事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理 事	鈴木 雅和	筑波大学 芸術系 名誉教授
理 事	田地 朗	東京地下鉄(株)常務執行役員
理 事	中川 晴美	東日本旅客鉄道(株)常務取締役
理 事	羽尾 一郎	(一社)日本民営鉄道協会理事長
理 事	平野 剛	西日本旅客鉄道(株)理事 東京本部長
理 事	降幡 賢一	前・日本エッセイスト・クラブ事務局長 (元・朝日新聞社編集委員)
理 事	増原 尚二	(公財)日本交通公社理事・総務部長
理 事	廻 洋子	敬愛大学特任教授

理 事	森 まゆみ	作家
-----	-------	----

(以上理事 18 名)

監 事	今村 正	税理士
監 事	佐藤 栄治	(公財)鉄道弘済会専務理事

(以上監事 2 名)

3. 評議員

(1) 2026 年 3 月 31 日現在の評議員

評議員	今村 啓一	前・(公財)NHK交響楽団理事長
評議員	大西 孝夫	元・(一財)休暇村協会理事長
評議員	蒲生 篤実	(独)国際観光振興機構理事長
評議員	黒野 匡彦	元・成田国際空港(株)代表取締役社長
評議員	高橋 広行	(株)JTB取締役会長
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	村尾 信尚	関西学院大学教授
評議員	森地 茂	政策研究大学院大学名誉教授

(以上評議員 8 名)

4. 事務局

2026 年 3 月 31 日現在の職員 5 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会

1. 理事会

- (1) 第1回理事会 2025年5月26日(月) 午前10時より11時

開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
決議事項 2024年度事業報告及び決算報告、顧問の選任、観光資源専門委員の委嘱、2025年度定時評議員会提出議題
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席13名、欠席5名。監事出席2名。

- (2) 第2回理事会 2026年3月10日(火) 午後1時30分より2時30分

開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル2階会議室
決議事項 2026年度事業計画、2026年度収支予算、2026年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、顧問の選任、参与の委嘱、事務局長の任免、ナショナル・トラスト活動基金規程の制定、評議員会の招集
報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、ヘリテージセンター「名勝大乘院庭園文化館」の譲渡計画、2026年度第1回理事会の開催
出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席14名、欠席4名。監事出席2名。

2. 評議員会

- (1) 定時評議員会 2025年6月20日(金) 午前10時より11時30分

開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
決議事項 2024年度事業報告及び決算報告、理事の選任
報告事項 2025年度事業計画、2025年度収支予算、2024年度第2回・第3回及び2025年度第1回理事会の決議事項
出席等 決議に必要な出席評議員の数4名、出席6名、欠席2名。代表理事出席1名、監事出席2名。

Ⅲ 事業実施の概要

本年度は、支援事業の「地域遺産支援プログラム（愛称トラスト・エール）」において、（公財）日本ナショナルトラスト（以下、「JNT」）が採択団体に対し伴走支援を行う初年度であった。観光資源である貴重な地域遺産を自立的に保存・活用しようとする4つの採択団体に対して、JNTがコーディネーターとなり、専門家等の派遣、事業企画支援、情報・ノウハウ提供等を行った。1年目の活動等を報告したトラスト・エール交流会は、関係者だけでなく専門家や地域の方々からのトラスト・エールへの関心を深める機会となった。

保護事業においては、各保護資産で季節の行事や特別公開等を積極的に開催するとともに、SNSを活用して情報発信に努めた。また、各保護資産の価値の向上や活用の促進に向け、駒井家住宅は文化財の追加指定を受けたほか、離れの実施設計を実施し、旧安田楠雄邸庭園については保存活用計画を更新した。

さらに、JNTへの寄付の選択肢を増やし、且つJNTの認知度を高めるため、株式会社バリューボックスが運営するチャリボンの寄付先団体への登録を行った。また、「年会費自動振替 移行キャンペーン」を行い、会員の負担軽減、継続率の向上を図った。

本年度も貴重な文化財や美しい自然景観を次の世代につなぐべく着実に事業を展開するとともに確固たる財団基盤の強化に向けて積極的に取り組んだ。

1. 調査事業

（1）観光資源保護調査フォローアップ

2004年度にJNTが観光資源保護調査を実施し、報告書『ホフマン窯と赤レンガ』を発行した近江八幡市のホフマン窯についてフォローアップ調査を実施した。所有者に現在の保全状況や課題について聞き取りを行ったほか、行政と面談を行った。

2. 保護事業

（1）文化財取得保護計画に基づく保護事業

①白川郷合掌造民家の修復と管理運営（岐阜県白川村）

- ・白川郷合掌文化館（旧松井家）の管理を受託している白川ボックスによる総会が7月14日に開催され、職員が出席した。
- ・白川郷合掌文化館（旧松井家）の管理活用に関して、7月31日に、8月の夏季公開前の清掃活動を一般のボランティアを募集し行った（交流清掃活動）。村外から参加した5名と白川ボックスのメンバーで清掃活動を行ったほか、村の暮らしや合掌造り民家について理解を深める交流会も開催した。
- ・白川郷合掌文化館（旧松井家）の維持管理・保存修理に関して、敷地内の石積みが崩れたため、6月30日に修理を行った。

- ・ 9 月 5 日に白川郷合掌文化館および旧寺口家管理運営委員会を開催し、理事長と職員が出席した。委員会では、前年度の事業報告と本年度の事業計画について諮り、異議なく承認された。また、白川郷合掌文化館および旧寺口家のさらなる活用に向けて事務局から提案し、出席者で議論を深めた。
- ・ 10 月 14 日～15 日に開催された白川村荻町祭礼(どぶろく祭り)の運営に職員が参加し、どぶろくの交換所で外国人観光客等の対応を行ったほか、地元との交流を深めた。

《管理運営委員会の構成》

大田忠広・JNT 白川ボックス代表、野谷信二・白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長、和田茂・JNT 白川ボックス事務局、川田裕・白川村老人クラブ長生会会長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、JNT 他

- * 旧松井家 貸館 1 件
- * 旧寺口家 貸館 2 件

②動態保存車両(トラストトレイン)の運行と修繕 (静岡県大井川鐵道)

- ・ 本年度は大井川鐵道にて全 5 回のトラストトレインに係る活動を実施し、全 5 回のうち 2 回はトラストトレイン客車が運行された。5 回の活動に延べ 57 人のボランティアが参加した。
- ・ 2 月 21 日は親子ボランティアを実施し、親子を含む 27 名が参加した。当日はトラストトレイン客車清掃や貸切列車での車掌体験(ドア扱い、車内放送、切符販売)などのプログラムを実施し、好評を得た。
- ・ 昨年度に続きトラストトレイン交流会を 9 月 28 日に開催し 10 名が参加した。交流会ではトラストトレインボランティアが台湾の鉄道について紹介したほか、今後ボランティア活動の一環で予定している視察先の検討も行った。
- ・ 大井川鐵道(株)との 2025 年度トラストトレイン運営会議は 2026 年 4 月 17 日に開催予定である。運営会議では、本年度の活動報告、来年度の活動計画等を議題として協議を行う。

* 運行日等ボランティア活動

4 月 19 日(8 名)、10 月 18 日(7 名)、12 月 6 日(8 名)、1 月 17 日(7 名)、2 月 21 日(27 名)

③名勝旧大乘院庭園の管理事業 (奈良県奈良市)

- ・ 6 月 3 日に保護管理委員会を開催し、副理事長(関西支部長)と職員が出席して、前年度の事業報告および本年度事業計画についての審議を行った。また、同日に管理協議会を開催し、大乘院庭園文化館の運営について具体的な協議を行った。名勝大乘院庭園文化館のさらなる活用とそれに伴うリニューアルを奈良市が企画して

おり、関連して 2026 年度の休館が決定している。この対応を協議するため、11 月 20 日に管理協議会を開催した。

- ・維持管理については、例年実施している維持管理作業に加えて、良好な景観維持ならびに来園者の安全確保のための追加作業として樹木の剪定を行った。そのほか、排水溝の造設、ヤマザクラの支柱設置を行った。
- ・活用に関しては、観月の夕べを例年通り開催したほか、なら燈花会、関西文化の日のイベントに参画することが出来た。また、ロケーション利用等の積極的な活用を進めた。
- ・公益社団法人日本観光振興協会「地域遺産の保存・活用を通じた観光地域づくり事業」（公益財団法人日本財団基金事業）の事務局業務を受託した。本事業では、2025 年度からの 2 カ年にわたって地域の観光・文化関係者からなる有識者会議において、名勝旧大乘院庭園を核とした観光資源の磨き上げを通じ、持続可能な観光地域づくりを目指す。2026 年 2 月に第 1 回有識者会議を開催し、核となる観光施設（名勝大乘院庭園文化館）のソフト整備の方向性と、施設を核とした観光振興策の課題整理・施策検討を行った。

《保護管理委員会の構成》

尼崎博正・京都芸術大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、本中眞・奈良文化財研究所所長（JNT 観光資源専門委員）、西田紀子・奈良文化財研究所建造物遺構研究室上席研究員、高橋知奈津・奈良文化財研究所遺跡研究室長・奈良県、奈良市、西日本旅客鉄道（株）、JNT 他

* 入園者数 15,696 名（公開日数 301 日）、ロケーション利用等 69 件

* 奈良県および奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の管理事業（東京都文京区）

- ・6 月 19 日に保護管理委員会を開催し、理事長と職員が出席して、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画については、保存活用計画の更新等について諮り、異議なく承認された。
- ・保存活用計画の更新に向けて協議や編集作業を進めた。10 月 23 日には最終回となる保存活用計画更新検討ワーキング会議を開催し、活用計画、庭園および建造物の保存管理計画、旧安田楠雄邸庭園の価値等について検討を行った。関連して、1 月 10 日に保存活用計画（案）をボランティアに説明し、活用等について意見交換を行った。3 月に発行した。
- ・建物の保護管理については、蟻害が確認されたため、9 月～10 月に防除工事のほか全床下の蟻害・腐朽調査を実施した。
- ・管理活用に関して、定例の活用 WG 会議を 2～3 カ月に 1 回程度開催した。

- ・特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会(通称:たてもの応援団)や専門家と協議しつつ、五節句行事等の実施や貸館等による活用に努めた。

東京都教育委員会が主催する東京文化財ウィークでは、企画事業に参加し、11月1日～5日にかけて「江戸園芸のいろは～盆栽～」を開催した。これは、旧安田楠雄邸庭園が立地する千駄木が、江戸末期から明治にかけて団子坂の菊人形等で繁栄したことに因み企画した催しで、当日は樹齢200年を超える盆栽や、園芸文化の盛んだった駒込・千駄木付近の資料や錦絵、写真等の展示を行った。ミニ盆栽づくりのワークショップも好評で、連続公開期間の5日間で512人が来館した。

また、恒例の防空壕公開では、本年が戦後80年の節目の年であることから、戦争体験者から話を伺う会を2回開催した。

他に、「サマータイム公開キャンペーン」として、7月および9月の公開日について、午前中の公開時間を通常より30分拡大し(10時～16時)、夏季の暑さを避けて入館者を増やす取り組みを実施した。同時に、たてもの応援団が運営する旧安田楠雄邸庭園 Instagram のフォロワーで、キャンペーン期間中に来館した方を対象に入館料を100円割引する「Instagram フォロワー優待キャンペーン」を実施した。

- ・9月26日に文京区立肥後細川庭園 松聲閣で開催された第12回東京の日本庭園おもてなし協議会(主催:東京都建設局公園緑地部)に職員が出席し、都内の文化財庭園の担当者と意見交換を行った。

- ・その他、東京都が実施する東京いい庭キャンペーンに参加し、自治体による文化的活動に協力した。

- ・昭和の歴史文化を知ることができる施設として、内閣官房「昭和100年」関連施策推進室が旧安田楠雄邸庭園を視察した。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、内田青蔵・神奈川大学特任教授、服部勉・東京農業大学教授、JNT 他

* 東京都および文京区補助事業

* 一般公開 7,510 名(公開日数 103 日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 226 件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の管理事業 (京都府京都市)

- ・5月14日に保護管理委員会を開催し、副理事長(関西支部長)と職員が出席した。前年度の事業報告と本年度の事業計画について諮り、異議なく承認された。事業計画については、主に離れの実施設計や活用方法等について審議した。
- ・建物および庭園の保護管理については、老朽化が進んでいる離れについてワーキング会議で議論を重ね、2024年度に策定した基本計画に基づき実施設計を行った。
- ・管理活用に関して、定例のWG会議を3回開催した。

- ・活用に関して、「チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ」、「京都モダン建築祭」、春の特別公開（連続公開）など、積極的にイベントを開催して活用に努めた。また、「駒井家住宅シンボルプロジェクト」と題して、今後の駒井家の活用方法を検討するワークショップ等を開催している。5 月 15 日には駒井家住宅を会場に有限会社豊明の宮本和友氏を講師に迎え、デジタルメディアの活用方法を学んだ。

他に、自治会主催のハロウィンイベントなど、地域イベントにも参画した。

- ・5 月 8 日に京都芸術大学の造園実習が行われ、庭園の剪定と駒井家住宅の見学を行った（参加者 18 名）。
- ・京都大学と立命館大学アート・リサーチセンターが連携して進めている駒井卓先生資料アーカイブプロジェクトに協力している。立命館大学アート・リサーチセンターのデータベースシステムを活用し、駒井家住宅にある駒井卓の資料をデジタルアーカイブ化し、プロジェクトの HP に掲載するため、作業を進めている。
- ・1 月 27 日の京都市文化財保護審議会の答申により、温室・主屋増築部（現事務室）の追加指定と、離れの附指定が決定した。これにより、全棟が文化財となった。
- ・3 月 31 日の京都市告示により、歴史的風致形成建造物の指定を受けた。
- ・2027 年に控えた建築 100 年に向け、「駒井家住宅 100 周年プロジェクト」を立ち上げ、2026 年度以降に離れの修理工事や記念イベントを実施予定である。本プロジェクトのためのクラウドファンディングを 2026 年 1 月 28 日～3 月 25 日に実施し、132 名の支援者から 1,703,380 円の支援をいただいた。クラウドファンディングのほか、「駒井家住宅 100 周年プロジェクト募金」に対しては 2025 年度に 12 名の方から 277,000 円の寄付をいただいた。クラウドファンディング実施期間中には、支援を募るためのイベント「駒井家住宅とヴォーリズを語る」を 3 月 22 日に開催し、22 名の参加があった。イベントでは駒井家住宅保護管理委員会委員長の山形政昭先生（大阪芸術大学名誉教授）とヴォーリズ記念館館長の藪秀実氏による講演会を実施した。

《保護管理委員会の構成》

山形政昭・大阪芸術大学名誉教授、青井弘之・（株）一粒社ヴォーリズ建築事務所設計主幹、尼崎博正・京都芸術大学名誉教授（JNT 観光資源専門委員）、駒井達雄・寄贈者代表、西川完途・京都大学大学院教授、吉田友彦・立命館大学教授、JNT 他

* 京都市補助事業

* 一般公開 1,434 名（公開日数 71 日）、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 66 件

⑥文化財取得保護計画募金計画の継続

各保護資産の適切な維持管理および利活用の促進を目指した修復や価値の向上等を実施するため、文化財取得保護計画に沿って、経済界をはじめ関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

(2) その他の保護事業

①天心遺跡記念公園および天心墓地の保護管理（茨城県北茨城市）

- ・7月7日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について承認が得られた。
- ・維持管理については、例年通り北茨城市から維持管理のための補助金交付を受け、年間の維持管理業務を（公社）北茨城市シルバー人材センターに委託した。天心遺跡記念公園においては、定期的な除草や清掃作業、天心墓地では、除草作業と月2回の点検および供花を行った。

《保護管理委員会の構成》

豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城県立天心記念五浦美術館館長、片口直樹・茨城大学五浦美術文化研究所所長、JNT 他

* 北茨城市補助事業

②ED70 形 1 号交流電気機関車の保護管理（滋賀県長浜市）

西日本旅客鉄道(株)から寄贈された ED70 形 1 号交流電気機関車について、長浜市民やボランティアの協力を得て保護管理を行い、広く一般に公開した。

③巻機山の景観保全（新潟県南魚沼市）

東京農業大学と連携した植生復元のためのボランティア活動として、8月24日～25日に、池塘のイグサ類の刈り取りによる水面の景観復元、高山植物の種子採取・播種、新設階段脇の緑化ネット設置作業等を実施した（参加者 12 名）。また、予備的活動を8月16日～17日、フォローアップ活動を9月5日～6日に実施し、延べ6名が参加した。

(3) ヘリテイジセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営（奈良県御所市）

当文化館には葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点となっている。また、館内には休憩所と集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用されている。

（入館者数 7,937 名）

②白川郷合掌文化館(旧松井家)の管理運営 (岐阜県白川村)

白川村在住の JNT 会員によって組織されている白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。7 月 14 日には白川ボックス総会を開催し、公開に向けた清掃活動を実施した。白川ボックスの協力により 8 月に夏季開館(5 日間)を実施し、1,240 名が白川郷合掌文化館を見学した。

(入館者数 1,240 名)

③名勝大乘院庭園文化館の管理運営 (奈良県奈良市)

本年度も「ならまち近隣燈花会」、「奈良大文字送り火鑑賞」の開催や、「観月の夕べ」や「珠光茶会」の受入れを行った。館内では、当文化館主催の「二十四節気書画展」が開催されたほか、杉山華頓書道美術館の協力によるパネル展、ならまちわらべ歌フェスタ、庭園をテーマとした講座等が開催された。また、庭園内に飛来する水鳥を撮影し、館内に写真を掲示して来館者に紹介した。そのほか、10 月 31 日に管理運営委員会が開催され、副理事長(関西支部長)と職員が出席した。

(入館者数 31,306 名)

④長浜鉄道文化館の管理運営 (滋賀県長浜市)

年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮した。企画展「大正・昭和の地図と鉄道～東海道本線・北陸本線・信越本線の旅～」(4 月 5 日～7 月 4 日)では、長浜鉄道スクエアに所蔵されている大正から昭和時期の地図上で沿線をたどる企画を行った。「大阪万博へ誘う鉄道」(7 月 19 日～9 月 28 日)では大阪・関西万博の開催に合わせ、1970 年の大阪万博に向かう人々を運んだ鉄道に関する資料を展示した。万博の開催がもたらした鉄道旅の様子を紹介し、好評を得た。なお、長浜鉄道文化館、北陸線電化記念館、および旧長浜駅舎の 3 館は「長浜鉄道スクエア」と総称し入館者を受け入れているが、4 月 1 日から長浜鉄道スクエアの入館料を値上げし、大人 500 円、小中学生 200 円となった。

(入館者数 46,119 名) * 長浜スクエアとしての入館者数

⑤琴引浜鳴き砂文化館の管理運営 (京都府京丹後市)

本年度も写真展や貝がら手作り体験等多様な催しを実施した。南の島の人々と猫を描いた沖佐々木範幸氏の「イラスト作品展」(4 月 26 日～5 月 11 日)や、「写真展 フォト丹後」(2 月 15 日～3 月 8 日)が開催されたほか、修学旅行や社会見学を 15 件受け入れた。修学旅行では、フランス、オーストラリア、台湾と国外の高校生も訪れている。また、京丹後市内全小学校 6 年生を対象とした「大地の学習」で 16 校が来館

し、389 名が鳴き砂の鳴く仕組みや漂着物・岩石の種類や性質などを学んだ。さらに、関西万博や道の駅等に鳴き砂体験セットの貸し出しを行い、文化館以外の場所でも PR を行った。

(入館者数 10,114 名)

⑥北陸線電化記念館の管理運営（滋賀県長浜市）

当記念館では D51 形蒸気機関車と ED70 形 1 号機交流電気機関車を通年公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。2023 年度に（一財）日本宝くじ協会から助成を受けて設置した ED70 の車窓風景を楽しめる映像投影設備は、引き続き来館者から好評を得ている。10 月 18 日に実施された「長浜鉄道スクエア 鉄道イベント 2025」では、D51 の汽笛体験や ED70 の案内、クイズラリーなどを行った。

(入館者数 46,119 名) * 長浜スクエアとしての入館者

⑦村上歴史文化館の管理運営（新潟県村上市）

当文化館は、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮し、本年度は特別展「小和田恒氏ゆかりの品々」(11 月 8 日～2 月 23 日)が開催された。また、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」(2 月 28 日～4 月 5 日)は第 42 回を迎えた。享保年間から昭和に至る時代の雛人形が展示されたほか、隣接する村上市郷土資料館や若林家住宅でもひな人形が展示され、1,853 人の入館があった。

(入館者数 10,220 名)

⑧四国鉄道文化館の管理運営（愛媛県西条市）

当文化館(北館と南館)は、十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となっている。毎月開催している「おそうじ&勉強会」では、月ごとに扱う鉄道車両を変え、様々な体験、発見が出来る工夫を行っている。計 4 回開催したミニ SL・ミニ新幹線乗車会(合計約 3,600 名参加)、SL や新幹線に関する工作教室「てつぶん工作教室」を開催し、多様な企画作りで来館のきっかけを提供している。「伊予西条鉄道フェスタ 2025」(11 月 22 日・23 日)では特別車両の展示や鉄道模型走行会の他、駅前マルシェも開催された。2 日間の参加者は 1,849 名であった。

(入館者数 44,523 名)

⑨その他

4 月 2 日、2024 年度末に飛騨市(岐阜県)に引き渡した飛騨の匠文化館の譲渡セレモニーを現地で開催した。会長および理事長が出席し、飛騨市長から感謝状の贈呈等が行われた。セレモニーの後は飛騨市長の案内による飛騨古川のまちあるきと、懇親会

を開催した。セレモニーでは、地元紙数社から取材を受け翌日の新聞に掲載された。
また、全国紙のネットニュースにも取り上げられるなど大きな反響があった。

3. 支援事業

(1) 地域遺産支援事業

① 地域遺産支援プログラム

- ・ 2024 年度公募において採択した 4 団体に対する支援を開始した。
- ・ 4 月 25 日、8 月 8 日、12 月 8 日、3 月 12 日に専門家等で構成するアドバイザリーボードを開催し、4 団体の事業について助言を受けた。
- ・ 1 月 24 日に支援事業委員会を開催し、各採択団体の活動報告のほか、今後の公募に向けた協議を行った。
- ・ 4 団体の進捗状況は以下のとおり。

<たねまき（A 型）～活動のための基盤づくり～>

■ 滝上ふるさと研究会（北海道紋別郡滝上町）

対象とする地域遺産：千野家ハッカ釜

テーマ：

千野家ハッカ釜の保全活動とハッカ文化を活用した取り組みの模索

進捗状況：

6 月に専門家と現地を訪問し、千野家ハッカ釜・小屋の見学を行った他、行政や観光協会を交えて意見交換を行った。また、専門家による図面作成・応急処置案作成を実施した。9 月 19 日～21 日には、観光協会が主催するハッカ蒸留見学ツアーに千野家ハッカ釜・小屋の見学を組み込み、参加者 4 名にアンケートを実施した。さらに専門家によるハッカ釜・小屋の調査を行い、価値付けを行った。11 月 16 日に、JNT が協力して「滝上の和ハッカがすごすぎる！再発見セミナー」を開催し、滝上町民約 30 名が参加した。ふるさと研究会と覚書を 9 月に締結し、2025 年 11 月～2026 年 9 月の期間で、250 万円を目標にハッカ釜・小屋の応急処置のための特定募金を実施している（2025 年度末時点で 461,400 円）。

■ 門脇家住宅等保存協力会（鳥取県西伯郡大山町所子集落）

※重要伝統的建造物群保存地区

対象とする地域遺産：門脇家住宅 ※国の重要文化財

テーマ：

地域を巻き込んだ重要文化財の持続可能な活用方法の構築

進捗状況：

8月に専門家と現地を訪問し、行政を交えて事業について意見交換を行った。地域の風習や暮らしを伝える冊子づくりの準備として、当団体が中心になり住民にヒアリングを行い、歴史文化だけでなく住民の地域に対する考え等の聞き取りをした。また、団体の今後の活動の方向性を定めるため資金調達や当建物の活用について検討を行った。

<ひろがり（B型）～地域遺産保全の仕組みづくり～>

■NP0 法人“矢中の杜”の守り人（茨城県つくば市北条地区）

対象とする地域遺産：旧矢中家住宅 ※国の重要文化財

テーマ：

「文化と防災」でつながる地域遺産保全体制の構築

進捗状況：

9月～10月にかけて防災調査を行った。当団体メンバーおよび登録専門家、工学院大学の大学生を中心にまち歩きを行い、災害に関わる自然的要素等の抽出や歴史的建造物の把握を行い、地域で防災力を高めるための活動や仕組みの検討を行った。また、既存の防災の仕組みや地域内組織を把握するため、消防団等にヒアリングを行った。10月19日には当団体メンバーと工学院大学の学生を中心に旧矢中家住宅の防災訓練を行った。

■東かがわ市引田 町家マッチングプロジェクト（香川県東かがわ市引田地区）

対象とする地域遺産：引田地区の町家（空き家等）

テーマ：

引田「町家マッチングプロジェクト」事業

進捗状況：

6月に登録専門家と現地を訪問し、行政との意見交換を通じて事業への協力依頼を行った。8月10日～11日に、JNTが協力して「第1回 引田 町並みミーティング～空き家のリアル、お伝えします～」を開催し地域内外から約30人が参加した。11日は、地区内にある旧伊藤商店を会場に空き家ワークショップを行い、今後の活用可能性を模索するため、ボランティアによる残置物の撤去を行った。これらの活動を振り返り、登録専門家と仕組みの検討を行った。また、以前に行政が行った町並み調査の補足として、香川大学の協力を得て11件の建物詳細調査を行った。

②交流プログラム

1月24日に「語ろう！地域遺産から始まるまちづくり～2025年度トラスト・エール交流会～」を開催した。

鈴木伸治教授（横浜市立大学/支援事業委員会委員長）の基調講演のほか、トラスト・エール採択4団体からの報告、採択4団体を交えたパネルディスカッション、情報交換会といった豊富なプログラムを用意し、会場は約80名で満席、オンラインは約70名の申し込みがあった。パネルディスカッションでは各地の事業やJNTの伴走支援の内容だけでなく、採択団体の当事業への期待感や満足度を参加者に伝える機会となり、当事業への理解が深まった。情報交換会は、まちづくりに関心のある各地の団体等から活動の発表や話題提供等を行う機会を設け、大変盛り上がった。参加者アンケートでは、満足度約90%という結果であった。開催の様子を報告したSNSの投稿も多く反応があり、関係者だけでなく専門家や地域の方のトラスト・エールへの関心の広がりを実感できる機会となった。

（2）その他支援事業（相談窓口事業）

- ・前年度開設した相談窓口に、本年度は17件の相談があった。建物を中心とした地域遺産の活用方法や地域遺産支援プログラムでの支援希望など多様な相談が寄せられた。

（3）その他

- ・（一財）ハウジングアンドコミュニティ財団の助成事業に職員が選考委員として協力し、7月12日に東京で開催された第21回「住まいとコミュニティづくり活動助成事業（コミュニティ活動助成部門）成果報告会（令和6（2024）年度助成）＆まちづくりNPO交流の集い」、および2月20日に2026年度事業の選考会に職員が出席した。
- ・「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト～秋の一斉茅刈り～」

（一財）世界遺産白川郷合掌造り保存財団からの受託で、白川村の自然環境保全に取り組んでいる。9月23日には「かややね会議 展示見学会・交流会」として、国立科学博物館で開催された竹中大工道具館との共同企画展「植物×匠 めぐるいのち、つなぐ手しごと」を見学した後、参加者で交流会を開催した。自然素材に触れる面白さ等について参加者同士で感想を語り、JNTの事業を理解してもらう機会となった。また、11月8日～9日に開催された「白川郷 世界遺産登録30周年記念『結』の合掌屋根葺替え」（主催：白川郷荻町集落の自然環境を守る会）に協力した。JNTが地域外のボランティアを募集し、屋根上での作業をサポートするための茅束運びやごみ拾いを行った。作業の後は直会、オダレ（雪囲い）作りを行い、参加者と村民との交流の機会となった。

12月14日には白川村で、世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」30周年記念式典・シンポジウムが開催され、理事長が出席した。

4. 普及事業

(1) 会員事業

① 見学会・催し物等の開催

ア) 会員の集い

1月24日のトラスト・エール交流会と同日開催で会員の集いを開催した。周年となる会員10名が参加し、会長から感謝状と記念のバッジを受け取った。また事業報告を行い、本年度の事業で得られた成果や今後の方向性等について説明した。

イ) トラストトレイン

・トラストトレイン運行日等ボランティア参加者数

4月19日、10月18日、12月6日、1月17日、2月21日（延べ57名が参加）

※2月21日は親子ボランティア（27名が参加）

※トラストトレインは4月19日および12月6日に運行した。

・その他の活動

9月28日…トラストトレイン交流会「海外の鉄道・保存鉄道について知ろう！
みんなで鉄道について語ろう！第2弾」（10名が参加）

ウ) 旧安田楠雄邸庭園

・主催イベント

4月5日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開

4月16日、19日・・・・・・・・・・・・・蓄音機の音色

(4月30日)～5月4日、7日、10日・・・・端午の節句 ※連続公開

5月21日、24日・・・・・・・・・・・・・蓄音機の音色

6月の公開日・・・・・・・・・・・・・昭和の台所特別公開

6月18日、21日・・・・・・・・・・・・・蓄音機の音色

7月2日、5日・・・・・・・・・・・・・七夕飾り

7月16日、19日・・・・・・・・・・・・・蓄音機の音色

7月30日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開

9月17日、20日・・・・・・・・・・・・・蓄音機の音色

9月28日・・・・・・・・・・・・・新内節で語る名作

(出演：岡本宮之助ほか、演目：「明烏夢淡雪」)

10月8日、11日、15日、18日・・・・・・重陽の節句

(「菊のきせ綿」飾りや展示など)

10月26日・・・・・・・・・・ かたりと和らいふ

(出演：語りと和楽の芸人衆<かたりと>、演目：森まゆみ作「谷中おぼろ町」)

12月10日、13日・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

12月13日、17日・・・・・・・・・・ 紅葉のライトアップ(夜間公開)

1月7日～28日の公開日・・・・・・・・ 人日の節句(お正月の玩具展示)

2月18日、21日・・・・・・・・・・ 蓄音機の音色

2月28日～3月4日、7日、11日、14日・上巳の節句 ※連続公開

3月25日・・・・・・・・・・ しだれ桜のライトアップ(夜間公開)

3月29日・・・・・・・・・・ しだれ桜と琵琶の音

・その他イベント

(3月22日～)4月2日の公開日・・・・ 春の東京いい庭キャンペーン参加

(園路開放)

主催：東京の日本庭園おもてなし協議会

11月1日～5日・・・・・・・・・・ 東京文化財ウィーク 企画事業参加

「江戸園芸のいろは ～盆栽～」

(大宮盆栽村 100周年記念連携企画) ※連続公開

東京文化財ウィーク主催：東京都教育委員会

11月15日～12月7日の公開日・・・・ 秋の東京いい庭キャンペーン参加

(11月26日～12月13日の公開日に園路開放)

主催：東京の日本庭園おもてなし協議会

3月21日～(4月1日)の公開日・・・・ 春の東京いい庭キャンペーン参加

(園路開放)

主催：東京の日本庭園おもてなし協議会

エ) 駒井家住宅

・主催イベント

4月25日～27日・・・・・・・・・・ 春の連続公開

5月15日・・・・・・・・・・ 駒井家住宅シンボルプロジェクト

10月26日・・・・・・・・・・ チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ

3月22日・・・・・・・・・・ 駒井家住宅とヴォーリズを語る

・その他イベント

10月25日・・・・・・・・・・ 伊織町ハロウィン参加

11月3日、9日・・・・・・・・・・ 京都モダン建築祭参加

主催：京都モダン建築祭実行委員会

(京都市、公益社団法人京都市観光協会ほか)

②会員活動の支援

会員による以下の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

ア) 地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

4月19日・・・・・・・・・・棟つつみ

4月25日・・・・・・・・・・雪囲いはずし

7月14日・・・・・・・・・・清掃、総会

7月31日・・・・・・・・・・交流清掃活動

8月・・・・・・・・・・夏季開館

11月14日・・・・・・・・・・雪囲い

イ) サークル活動

民家・町並みサークル

情報発信を中心に活動を継続している。

9月7日・・・・・・・・・・UR まちとくらしのミュージアム見学会

11月24日・・・・・・・・つくば見学会（JNT 共催）

③会員増加キャンペーン等の実施

関連団体および企業の協力により、入会申込書の配布や設置等を行い、入会促進に努めるとともに、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

ア) 初年度会費無料キャンペーン

1月1日から3月31日までに入会した方を対象として初年度会費および入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

イ) プラスワンキャンペーン

4月1日から5月31日まで会員の紹介者に対して入会金無料および会報のバックナンバー無料などの特典を付与したキャンペーンを行い、積極的にPRを行った。

ウ) 年会費自動振替 移行キャンペーン

2月1日から2月27日まで会費の支払い方法を金融機関からの自動振替に変更した会員に JNT 限定トートバッグをプレゼントするキャンペーンを行い、会員の負担軽減、継続率の向上を図った。

(2) 広報事業

① 会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布(隔月刊)

年間6回の発行で内容の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。

＜体裁＞B5 16 頁 ＜発行部数＞2,100 部

＜通巻＞567 号～572 号

567 号（5 月 1 日発行） 特集「支援事業 地域遺産支援プログラム
第 1 回公募 採択団体を決定」

568 号（7 月 1 日発行） 特集「今年のしごと」

569 号（9 月 1 日発行） 特集「鉄道の魅力を伝える、その裏側」

570 号（11 月 1 日発行） 特集「文化的景観 20 年～文化庁と各地の取り組み～」

571 号（1 月 1 日発行） 特集「世界遺産『白川郷・五箇山の合掌造り集落』
登録 30 周年を迎えて
～10 年後、20 年後の次世代が誇れる白川郷で
あり続けるために～」

572 号（3 月 1 日発行） 特集「トラスト・エール 初年度を振り返る」

② ウェブサイト、SNS での情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員や JNT に関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトを随時修正し、またフェイスブックはリアルタイムな発信を心掛け更新に努めた。フェイスブックは平日毎日 1 回の投稿を継続し、イベント情報のお知らせのほか、JNT だからこそ伝えられる事業の裏側等を発信した。会員等と双方向でつながるツールとしても好評を得ており、現在、フェイスブックは約 1,020 人がフォローしている。

また、前年度立ち上げた JNT 公式インスタグラム、公式 X、公式 youtube チャンネルの更新を定期的に行っている。

③ メールマガジンなどの普及宣伝ツールの活用

メールマガジンを月 1 回の頻度で配信し、JNT や地域の関連情報を掲載するなど内容を改善しつつ、積極的に情報発信を行った。（登録者数約 800 名）

④ 関係団体の広報協力

本年度も地下鉄博物館（東京都江戸川区）にトラストトレインのパンフレットおよびトラストトレインの維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいた。また、

JR 東日本をはじめとした多くの関係団体・企業の協力を得て、保護資産およびプロジェクトを含め、幅広く JNT の紹介を行っていただいた。駒井家住宅および旧大乘院庭園に関しては、JR 西日本や叡山電鉄、観光協会から継続的に広報協力を得ることができた。

⑤その他

- ・内閣官房による「昭和 100 年」関連施策に協力した。JNT の活動が紹介されたほか、旧安田楠雄邸庭園のイベント「昭和の台所公開」および「蓄音機の音色（昭和歌謡）」が昭和 100 年関連施策としてポータルサイトに掲載された。
- ・法政大学の求めに応じ、職員が講演を行った。
- ・観光経済新聞 4 月 7 日号の「創刊 75 周年記念特集号」において、観光関係団体の一つとして広告を掲載した。
- ・JNT への広報協力の一環として、観光経済新聞電子版に「ヘリテイジセンター「飛驒の匠文化館」 飛驒市に譲渡へ」（会報 2025 年 3 月号掲載）の記事が掲載された。
- ・東京メトロ主催の「メトロファミリーパーク in AYASE」において、JNT およびトラストレインの広報活動を実施した。

（3）その他普及事業

①他団体主催イベント等の後援等

- ・「第 16 回 柳都新潟・古町花街イベント
～古町花街における文化的景観としての価値～」
主催：古町花街の会、新潟まち遺産の会
後援名義期間：承認の日～3 月 21 日

5. ネットワーク事業

（1）ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

6 月 21 日～22 日に愛知県名古屋市で総会及び大会が開催され、職員が出席した。

（2）全国近代化遺産活用連絡協議会

7 月 23 日～25 日に愛知県犬山市で総会と大会が開催され、職員が出席した。また、10 月 1 日～11 月 30 日に実施された「近代化遺産全国一斉公開 2025」に駒井家住宅が参加した（金土曜日の公開日のみ）。

（3）一般社団法人日本茅葺き文化協会

6月7日に、総会・フォーラムが東京会場・オンライン併用で開催され、JNT 職員が出席した。

(4) 全国鳴砂ネットワーク

2026 年度のサミット開催に向けて関係者との協議や調整を行った。

6. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1) 国内交流事業

① 国内保護団体との連絡連携および情報の交換

ア) 文化財指定庭園保護協議会

7月3日～4日に倉吉市で総会が開催され、職員が出席した。

イ) 全国町並みゼミ

10月31日～11月2日に台湾で大会が開催され、職員が出席した。

ウ) 全国伝統的建造物群保存地区協議会

7月3日～4日に京都市で総会および大会が開催され、職員が出席した。

② JNT が参加登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク、東京商工会議所

③ その他

ア) (公財) 日本国際教育支援協会の留学生受入れ

6月29日に旧安田楠雄邸庭園において、JNT 団体会員である(公財)日本国際教育支援協会(JEES)主催の留学生を対象としたスタディツアーが開催され、JNT が協力した。当日は JNT や本庭園についての概要説明の後、ボランティアガイドによる館内見学が行われた。その他、館内の清掃体験や留学生が自国の文化財を紹介する

懇親会、蓄音機による音楽鑑賞など充実したプログラムで、留学生に対して日本の伝統文化に触れ合う体験を提供した(20名が参加)。

イ) 文化遺産信託研究会主催シンポジウムにおける講演

8月26日～28日にかけて、JNTが賛助会員として参加している文化遺産信託研究会の第4回シンポジウムが開催され、職員が出席し基調講演を行った。

(2) 国際交流事業

① 海外保護団体との連絡連携および情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力に努めた。

② 交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト(名誉会員)

米国ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クイーンエリザベス二世ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ジョージア州ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

フィジー・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

バミューダ・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

7. その他

(1) 事業賛助等の協力要請について

従来の法人に加え、建設や自動車販売関連等幅広い業界などに賛助依頼を行った。その結果、多くの企業・団体から新規での支援や寄付の強化など、新たな協力が得られた。

(2) ナショナル・トラスト活動基金の造成について

公益財団法人日本財団により、「自然・文化遺産等観光資源の保護および支援プラットフォーム形成のための基金造成」の助成金申請が採択され、「ナショナル・トラスト活動基金」が造成された。(助成金額2.4億円)

今後、本基金により「地域遺産プラットフォーム事業」および「歴史的建造物(駒井家住宅)の保存・活用事業」を実施する。

(3) ホームタウンちよだ応援事業

ふるさと納税を通じて公益的活動への支援を行う、千代田区の「ホームタウンちよだ応援事業」において寄付先団体として指定された。

(4) charibon (チャリボン)

JNT が charibon (チャリボン) の寄付先団体に登録され、9 月から寄付の受付を開始した。「チャリボン」とは、株式会社バリューブックスが運営する、古本等のリユースを活用して NPO・NGO などのファンドレイジングをサポートするサービスで、チャリボンに送付した古本等の査定額が JNT に寄付される。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2025 年 6 月 24 日

- ・ 大路洋司理事の退任、平野剛理事の就任 (2025 年 6 月 20 日付)

2026 年 2 月 6 日

- ・ 安富正文代表理事の住所変更 (2025 年 11 月 1 日付)

2. 届出・報告・申請事項

2025 年 6 月 30 日

- ・ 令和 6 年度事業報告等の提出 (内閣府)

2025 年 7 月 10 日

- ・ 役員変更の届出 (内閣府)

2026 年 3 月 30 日

- ・ 事業計画書等の提出 (内閣府)

参考

アドバイザー名簿 (2026 年 3 月 31 日現在)

アドバイザー	梅崎 壽	東京地下鉄(株) 名誉顧問
アドバイザー	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道(株) 顧問
(以上アドバイザー2 名)		

顧問名簿 (2026 年 3 月 31 日現在)

顧問	青柳 俊彦	九州旅客鉄道(株) 取締役会長
顧問	安藤 隆司	名古屋鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	泉 雅文	四国旅客鉄道(株) 顧問
顧問	大塚 雄二郎	大塚化学(株) 特別相談役
顧問	大庭 靖雄	前・(公財) 日本ナショナルトラスト理事長
顧問	尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
顧問	片野坂 真哉	ANA ホールディングス(株) 取締役会長
顧問	金子 慎	東海旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	柄澤 康喜	三井住友海上火災保険(株) 常任顧問
顧問	小坂 彰洋	東京地下鉄(株) 代表取締役社長 社長執行役員
顧問	小山 薫堂	放送作家
顧問	西郷 直子	(株) 学研ホールディングス執行役員
顧問	島田 修	北海道旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	田口 繁敬	日本空港ビルデング(株) 取締役専務執行役員
顧問	田村 明比古	成田国際空港(株) 相談役
顧問	都筑 豊	東武鉄道(株) 取締役社長
顧問	長谷川 一明	西日本旅客鉄道(株) 代表取締役会長
顧問	原田 一之	京浜急行電鉄(株) 取締役会長
顧問	深澤 祐二	東日本旅客鉄道(株) 取締役会長
顧問	伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
顧問	星野 晃司	小田急電鉄(株) 取締役会長
顧問	MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
顧問	宮田 亮平	金工作家(前・文化庁長官)
顧問	村田 光平	元・駐スイス大使

(以上顧問 24 名)

観光資源専門委員名簿（2026 年 3 月 31 日現在）

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授
観光資源専門委員	井手 久登	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	河東 義之	小山工業高等専門学校名誉教授
観光資源専門委員	鈴木 邦雄	横浜国立大学名誉教授・元学長
観光資源専門委員	西村 幸夫	東京大学名誉教授
観光資源専門委員	西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター教授
観光資源専門委員	本中 眞	(独)国立文化財機構奈良文化財研究所所長

（以上観光資源専門委員 7 名）